

2018年6月6日

## 北朝鮮による朝鮮半島非核化発言の狙いと南北統一戦略

西村金一

軍事・情報戦略研究所長

金正恩委員長の「叔父の張成沢を高射砲で殺害し、実兄の金正男を化学兵器VX剤で公衆の面前で無残に殺害した指導者」という印象を、韓国の文在寅大統領が「平和を求めている、ものわかりのいい、人間性溢れる戦略家の指導者」に作り変えた。

韓国の世論調査が、作りかえられたイメージを如実に表現している。

韓国の世論調査会社は4月30日、南北首脳会談を受けた認識の変化を調査した結果、非核化や平和に対する北朝鮮の意思を「以前は信頼していなかったが、今は信頼する」との回答が52.1%だったと発表した。「以前も今も信頼する」との回答は12.6%で、信頼する人が合わせて64.7%に達した。

韓国社会世論研究所所長等が5月8日、国民大1年生を対象にした調査の結果、金委員長のイメージの好転は顕著で、会談前に4.7%にすぎなかった「肯定的」が、会談後は48.3%に伸びた。「否定的」は87.7%から25.8%に後退した。

文在寅政権の動きと韓国国民の反応を見ていると、不気味で恐ろしさを感じる。

国家安全保障を考える我々として、これからの朝鮮半島の動きを読むには、北朝鮮による「朝鮮半島の非核化」と「南北統一」の2面を見なければならない。そして、まず、ポンコツ兵器と特殊部隊からなる「北朝鮮軍事力の実態」と北朝鮮が行ってきたこれまでの「ならず者国家」を理解して、核・ミサイル開発するために騙してきた戦略を解明し、その延長線上に、北朝鮮による南北朝鮮統一戦略と朝鮮半島の非核化発言を分析して、予測する必要がある。

### 1. 北朝鮮軍の実態

#### (1) 軍と通常兵器の能力

北朝鮮軍事力のイメージは

旧式兵器と近代兵器で戦う場合のイメージ

- ・空軍の戦闘
- ・北朝鮮の軍艦がどれほど古いのか
- ・海軍の戦闘
- ・北朝鮮軍がソウルに砲撃すると、どうなるのか

北朝鮮軍の勝ち目（通常兵器）は、特殊部隊

北朝鮮軍は、核とミサイルに依存している。

核とミサイルがあるから、体制の保証ができています

(2) 弾道ミサイルの能力

北朝鮮の弾道ミサイルはどのように進化してきたのか

今後の予想

対艦弾道ミサイルと対艦ミサイルの違い

潜水艦発射弾道ミサイルの能力

(3) 核兵器の能力

## 2. ならず者国家の実態

(1) ならず者国家の正体

(2) 騙し方がうまい

## 3. 北朝鮮が言う「朝鮮半島の非核化」の狙いと米朝会談の行方

(1) 狙いは、米韓同盟の破棄だ

(2) 合意により在韓米軍や国連軍が撤退すれば

(3) 金正恩は核を離さない

- ・北朝鮮に裏切られた過去
- ・5月24日核実験場の爆破は、短期間で復帰できる

(4) 米朝交渉の行方

- ・相互の主張から落下点を予想するが、なかなか見えてこない
- ・会談で落下地点が見えるか、見えないか、よくわからない
- ・合意は可能だが、北朝鮮が履行するとは思えない
- ・交渉が時間稼ぎに使用されると最悪に。北の核は50~100個に

## 4. 北朝鮮による南北朝鮮統一戦略

浸食される朝鮮半島

南北朝鮮統一は、東西ドイツ統一とはまったく違う

(1) 騙される韓国

(2) 韓国占領は時間の問題

(3) じわじわと浸食

(4) 統一への3段階「兵は詭道なり」

この戦略は、大きく三つのステージに分けられる。

第1ステージ：韓国国民から北朝鮮の恐怖を取り除く

第2ステージ：米軍を韓国から撤退させ、北朝鮮の軍事的優位を作る

第3ステージ：北朝鮮が韓国を占拠する軍事作戦の始まり

## 5. 今後の予想

今回の米朝交渉は難しい。なぜなら北朝鮮が核兵器やICBMをほぼ完成させているからだ。交渉の焦点は、北の核・ミサイル廃棄と米韓軍事同盟の破棄だが、核廃棄はしないという北の本音を米国が見透かしていれば、軍事的合理性から見て、交渉が成立するとは考えられない。だが、北朝鮮が欺くとわかっているにもかかわらず、米国や韓国が、合意を結ぶことを優先すれば、交渉成立の可能性もある。当然、交渉が成立しても北朝鮮が合意を履行する可能性は低い。

日本にとっても他人ごとではない。

朝鮮半島が全て北朝鮮になると、中国・北朝鮮・ロシアへの抵抗線だった三八度線が下がり、防衛のラインは日本になる。そうすると、日本の防衛戦略、自衛隊の戦力を大幅に見直さなければならなくなる。当然、いまの憲法9条では、周辺諸国の脅威に対応できなくなるだろう。

韓国に進出している日本企業は、すぐに韓国からの撤退計画を作成し、平和協定が成立したら撤退を決心して行動を開始することだ。米軍部隊の撤退開始と同時に企業資本の撤退を始め、米軍の撤退完了が企業の撤退完了でなければならない。

2018年4月27日は歴史的な日になった。平和に向かう第1歩と思われているかもしれない。だが、私は、朝鮮半島が平和に向かうのではなく、韓国が呑み込まれてしまう大きな一歩になった。文在寅大統領は、南北の平和に貢献したのではなく、韓国が北朝鮮に占領される道筋を作った人として歴史に残ると思う。